



将棋のまち いなぎ

令和8年「二十歳の式典」

1月12日(月・祝)によりランドにて「二十歳の式典」を開催。20歳を迎えた皆さんを代表して、二十歳の式典実行委員(10人)から代表して4人の抱負や思いをご紹介します。

▷問合せ 生涯学習課

与えられる側から与えられる人間へ 長谷川 大

「二分の一成入式」という学校行事で夢を語り二十歳の自分を想像してから早10年、気づけば私は無事に20歳を迎えることができました。4年前、16歳の私は大きな決断をしました。それはこの大好きな稲城という地元をとびだして幼少期からの夢であった甲子園出場を目指し、野球留学をするという選択でした。

多くの友人や家族、あたたかい地域の方々に支えられ、伸び伸びと名前通り「大きく」育っていった私にとってその決断は自らの夢を「目標」に押し上げる大きな要因になりました。こんなに大好きな地元を出て、大切な友人や家族との時間を切り捨てた分、大きな覚悟が私の胸には宿り、高校での3年間をとて濃密で有意義な時間にするのができたと感じています。しかし、新たな環境下で一人走り続けることは16歳の私にとって決して楽な道のりではなかったのも事実でした。努力だけでは越えられない壁が現れた時や、周りの人すべてが敵であるかのように感じてしまう時もありました。険しい環境で高みへ挑戦するからこそ見つかる自分の弱さや肌身で感じた社会の厳しさというのも今となっては大きな財産になったと感じることができます。

そのような経験をした上で今私の生き方の指針になっているのが「おかげさま」という言葉です。実家を離れたからこそ感じたのはこれまで「生かしていただいていた」という価値観でした。楽しく学ぶことができていた学校生活も、食事を毎日いただけていたことも、やりたいうことに取り組めていたことも。全ては多くの人々の支えで成り立っていて、私というただ一人の存在では何も成し得ないことを痛感しました。すべては誰かの「おかげさま」によって今の自分がある。そんな私だからこそ今度は誰かの「おかげさま」の一部になれるように。それが20歳を迎えた私の新たな目標です。ある科学者は「人間は人生の体感時間の半分を20歳で終える」と提唱しました。20歳を迎えた皆さんは残り半分の人生をどう過ごしたいと考えますか？

わたらしく、生きること 長崎 珠莉菜

2005年、わたしがこの世に生を受けてから、早いもので20年が経ちました。そのような大きな節目で、わたしの「これまで」と「これから」について考えてみます。

これまでのわたしは「誰かに作られたわたし」でした。周りの雰囲気に合わせて、誰かに良い評価をしてもらったりすることが最優先で、自分の気持ちを押し込めたり二の次にしたりすることもよくありました。

特に、服装については顕著でした。中学・高校では着用すべき服が指定されていましたが、それは生まれたときに割り当てられたものによって決まるシステムでした。途中でそのシステムが変わっても、社会的に根付いた潜在的な意識はすぐには変わらず、服装において「生まれたときに割り当てられたもの」と「今持っているもの」のギャップが自分の中でどんどん大きくなっていきました。

2年前、高等学校を卒業したタイミングで、思い切って自分のやりたい装いに積極的に挑戦するようになりました。服装だけではなく、自分の興味があったメイクやアクセサリーにも少しずつチャレンジしています。難しい・合わないと感じることもあるけれど、やればやるほど、「作られたわたし」ではない「ほんとうのわたし」に自信がもてるようになってきています。

これからは、このようなチャレンジを継続して、「表現したいわたらしさ」を大切に、またそれを尊重し合っていきたいです。先日の二十歳の式典でのわたしの姿も、そのチャレンジの1つのつもりです。わたしが小中学生だった頃のことを知っている方の中には、そのギャップに驚いた方もいらっしゃるかもしれませんが、それを「ほんとうのわたし」として受け入れてもらえると嬉しいです。

最後になりますが、わたしのここまでの20年間にかかわってくださった皆様に、厚くお礼申し上げます。

二十歳で繋がったご縁

大賀 由菜

二十歳、私にはたくさんのご縁がありました。

家族や親戚、友達、学校の先生、共に部活動に励んだ同期や先輩後輩。中学校の頃までは稲城市内で完結していた人とのご縁が二十歳になった今ではさらに大きく広がりました。また、新たな出会いの中で様々な価値観や考え方を知りました。

私はまわりの人につくづく恵まれています。心から笑って話せる友達がいて、親身に寄り添ってくださる先生方と出会い、辛い練習を乗り越え毎日のようにバスケットボールに打ち込んだ仲間がいます。そして、二十歳になった今でも稲城市で共に学び育った友達との縁は続いています。中学校を卒業するまでは毎日のように会って話していた友達と会う機会は徐々に少なくなり、いつの間にかそれが当たり前になっていきました。それでも再会すれば当時と変わらない居心地の良さがあり、自身の成長と共に関係性を少しずつ変化させながらも幼い頃から知っている仲だからこそ安心感を感じます。

また、今回二十歳の式典実行委員として活動をしていく中で、三年間お世話になった中学校の先生方にお会いする機会がありました。中学校卒業ぶりに先生方にお会いして、私を含めた学年の生徒のことや出来事を先生方に覚えてもらえていること、それだけでなく二十歳になった今でも私たちの近況を気にかけていただいていることを知りました。先生方にとってはきっと何百人という生徒のうちの一人であり、五年も前のことであるにもかかわらず、

今でも気にかけてくれていることを知った時、私はその先生方の存在をとて心強く感じました。その心強さは、私のこの先の選択を激励するものでした。

私たちは、これから先も多くの人と出会い、関わり、それと同時に今ある人とのご縁も続いていくと思います。二十歳という人生における一つの節目を、今ある人とのご縁に感謝し、普段は照れくさくて伝えられないその想いを言葉で直接伝える機会にしたいです。

感謝から恩送りへ

元谷 悠理子

稲城市に生まれてから20年間。あっという間のように感じます。多くの貴重な経験をさせていただきました。

幼稚園や小学校では、友達と全力で遊んだり、係や委員会の活動を通して自分の役割を果たしたりする中で、人の気持ちを考える力や努力を続ける力を身につけていきました。中学・高校では、礼儀や集団行動を意識するようになり、部活動を通して目標に向かって努力をして、自分なりに考えて行動する力を養いました。大学生になってからは専門科目を学びながら、自分

がどのような人間なのかを考える時間が多くなりました。振り返ると、学生生活の一つひとつの経験が自分を成長させてくれていたように感じます。

20年間という長いようで短い時間の中、どの経験にも必ず誰かの支えがありました。家族をはじめ、先生や友人など、周りの方々の助けがあったからこそ乗り越えられた壁も多くあります。これまでの経験は、支えられて、教えられながら積み重ねてきたものです。これからは、成人した一人の人間として、誰かを支え、良い影響を与えられる存在になりたいと思います。

そして、これから先も新しい出会いや挑戦を通して、さまざまな価値観に触れ、自分の世界を広げていきたいです。これまでに培った「考える力」や「行動力」を活かし、まだまだ未熟な自分を成長させていきたいです。これからも多くの経験を通して、学び続ける自分でありたいと心から思っています。これから歩む道の中でも、感謝の気持ちを忘れず、一步一步を大切に進んでいきたいです。

政治に声を届けよう

選挙管理委員会

今回20歳を迎えられた皆さんは、18歳から選挙権を有しますが、選挙権が18歳に拡大されてここの10年が経過しました。また、女性参政権80年、普通選挙100年となりました。

皆さんの中には、投票を通じて自分と「政治」との関わりを少なからず感じるものがあつたのではないのでしょうか。景気や雇用の話から、教育、環境、ごみの問題など、私たちの身の回りにあるほぼすべてのことが政治とつながっています。しかし、その政治も、いろいろな年代の意見のバランスが取れてこそ皆さんのためのものとなります。

選挙は、主権者としての意見を政治に反映させることのできる最大の機会です。ぜひ、選挙で皆さんの声を届けてください。

二十歳になったら

国民年金

保険年金課年金係

日本に住んでいる二十歳以上六十歳未満の方は、国民年金の被保険者(加入者)となります。二十歳になると学生であっても、国民年金の被保険者(加入者)となり保険料を納めることになります。

保険料の納付が困難なときには「免除・納付猶予」「学生納付特例」など、保険料の支払いを免除・猶予する制度があります(いずれも所得制限あり)。

日本年金機構では、国民年金制度の内容やメリット、保険料の納付方法や免除等の手続きなどをわかりやすく動画でご案内しています。詳細は下記、日本年金機構Webよりご確認ください。

